

# も り 北の森林 国有林



写真：三の沼から望む冠雪した羅臼岳

## 今月のトピック

～貴重な北海道産広葉樹の供給～



国民の森林・国有林

林野庁 北海道森林管理局



# 貴重な北海道産 広葉樹の供給

## 資源活用第二課

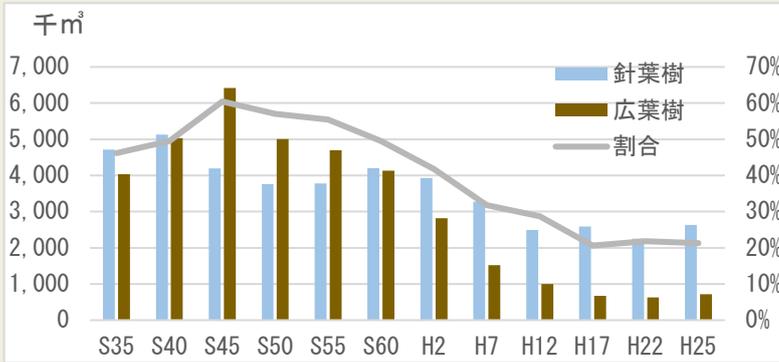


北海道は、ミズナラ、ウダイカンバ、ヤチダモ、セシノキ、イタヤカエデなどの広葉樹資源が豊富であり「広葉樹の産地」として知られてきました。特に、旭川地域は広葉樹製材品関係の工場や木材取り扱い業者が多く、北海道はもとより全国屈指の広葉樹の集散地として名を成しています。



人工林の中に点在する広葉樹

昭和30年代から40年代半ばにかけて、国有林の広葉樹の伐採量は増加し、伐採量全体の約半分を占めるまでになりました。しかしながら、平成10年代に入り広葉樹材は、質・



針葉樹・広葉樹別素材生産量の推移（北海道）

（木材需給報告書より）

量とともに低下し供給量も著しく減少してきた結果、現在では伐採量全体の15%程度の水準にまで落ち込んでいます。現在の広葉樹の供給は、人工林資源の成熟に伴い、針葉樹人工林の中に点在する広葉樹が主体となってきました。広葉樹製材の分野では、建築内装材、家具、フローリング、楽器など北海道のみならず本州にも移出していました。家具用材については、最盛期の昭和30年頃には約13万m³が輸出されるほどでした。特に、旭川地域は、家具産業の盛んな地域として国内有数の規模にまで発展しました。昭和30年代から40年代にかけて、婚礼家具であるタンスや食器棚などを中心に、北海道外に拡大していききました。最近では、大量生産から多品種少量生産、受注生産へとシフトし、時代に合わせて変化してきています。また、木工技術を継承するための人材育成に対して、地域や行政の体制が整っていたことも産業として定着

してきた一因と言えます。このような背景の中、「北海道産銘木市（旭川林産協同組合）」が昭和40年代から開催され、現在（10月）まで409回を数えており、全国各地の木材業界の方々が北海道産の優良な広葉樹を求めて参加されています。国有林も開催当初から出品していますが、広葉樹天然林の伐採量減少に伴い、出品量は減少し、特に大径の良質材は少ない状況となっています。しかしながら、貴重な広葉樹資源を有効に活用し、北海道内外の広葉樹の需要に少しでも対応するため、山



旭川銘木市での展示状況

元での採材の工夫などの取り組みにより、最近では、三千m³程度を供給してきています。10月13日に開催された銘木市では、道産広葉樹を主に約620m³が集荷され、そのうち国有林材は214m³を出品しています。広葉樹の伐採時期は、これから冬期間にかけてピークとなります。昨年1月の出品量は民有林材も含め全体で約3,000m³であったことから、冬季に向けて国有林材、民有林材共に広葉樹の出材は増えてくると考えています。



旭川銘木市での入札の様子

また、今回銘木市では、10月の木づかい推進月間の取組の一つとして、石原森林整備部長が国有林材のPRと広葉樹材利用拡大、木材利用の推進などについて参加者にPRしました。



石原森林整備部長(中央)による国産材のPR

北海道森林管理局では、貴重な広葉樹資源を有効に活用していただくため、これからも銘木市へ積極的な出品を行い、さらに、銘木以外の広葉樹一般材に関しても、より効果的な利用がされるよう取り組んでいく考えです。



旭川銘木市に出品された広葉樹の小中径木



旭川銘木市に出品されたウダイカンバの優良材

北海道産広葉樹については、ウダイカンバ、ミズナラ、セン、ヤチダモ等の優良材が、突き板(※1)や高級家具材、ウイスキー等の樽材として注目されているだけでなく、今まで製材としてあまり利用されなかった、シラカバやハンノキ等の中小径木も有効に利用されてきています。

また、都道府県別の広葉樹資源量(左下グラフ)において多く、北海道は群を抜いて多く、全国の広葉樹産業から注目されています。

北海道の林業・木材産業の成長産業化を目指すためには、トドマツ、エゾマツ、カラマツ等の成熟した人工林資源を活かしたCLT(※2)等の新たな需要開発・拡大と併せて、古くから北海道に定着し、北海道の木材産業を支えてきた広葉樹産業を発展させていくことも不可欠と考えています。

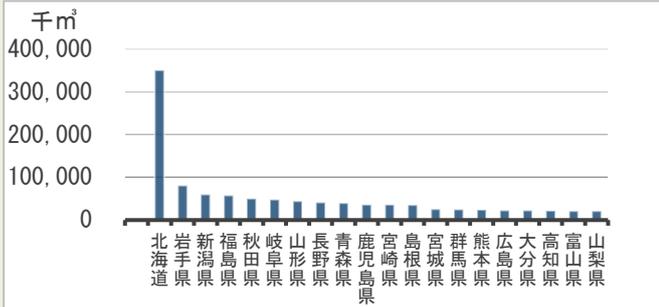
このため、北海道森林管理局では、間伐を行う人工林内に点在する広葉樹の更なる有効利用や未利用樹種の利用の可能性を検討することによって、貴重な広葉

樹資源の有効利用と広葉樹の安定的な供給に向けた取り組みを更に推進していく考えです。

●用語解説●

(※1) 突き板：木材を厚さ1mmほどに薄くそいだ板。通常、見栄えのよい上質な木材で作られ、合板などの化粧張り用。

(※2) CLT：(Cross Laminated Timber：直交集成板) ひき板を繊維方向が直交するように積層接着した重厚なパネル



「森林資源の現況」樹種別年齢別蓄積(平成24年3月31日現在) 都道府県別天然林広葉樹の蓄積(上位20道県)

北海道の代表的な樹種の特性と用途

樹種名	特性	用途
ヤチダモ	成長が良いと、重硬、悪いと軽軟となる。	家具、器具、合板、内部装飾材 など
ミズナラ	着色性に優れ、強度が大きく、重厚感がある。北海道のものが良質とされている。	洋風家具、器具、床板、運動具、洋酒樽、造船、木炭、合板、単板、車両 など
セン	加工はしやすい。とくに年輪幅の狭いものは、より加工しやすい。	家具、合板、器具、建築、下駄 など
ウダイカンバ	北海道では、心材部の赤みが強く大きいものをマカバ、弱く小さいものをメジロカバという。乾燥後狂いも少ない。加工性が高く強度も高い。	主に突き板として利用。家具材、フローリングなどの内装材、ドアなどの建具 など

# 地域課題の解決に向けた取組

## ～留萌北部地域における 伐採系森林整備の促進に向けた取組～

### 留萌北部森林管理署

#### 一 取組

留萌北部森林管理署では、管内の民有林の多くが、造林・保育による資源の造定期から本格的な資源の利用期を迎えようとしているなか、地域林業の活性化を図るために、どのような取組を行えば良いか、地域の林業関係者の皆さんと意見交換を行ってきました。



民有林関係者との意見交換会  
(署会議室)

このなかで、地域の林業関係者から「民有林では、ここ数十年、林業活動の主体が育林作業であり、高性能林業機械の導入も進んでおらず、発注者・事業者ともに木材の生産・販売事業に関するノウハウの蓄積が少ない。このため、今後、どのように事業の発注・管理及び木材販売をしていけば良いか情報提供をお願いしたい。」との要望がありました。

そこで、当署では、留萌振興局森林至天塩事務所と連携しながら、国有林の事例を通して事業発注や木材の生産・販売に係る工程を紹介し、民有林関係者の生産・販売に関するノウハウの習得に協力していくこととしました。



民有林での施業技術検討会  
(天塩町町有林)

#### 二 民有林における生産事業の現状把握

当地域の民有林における間伐事業では、その多くがヘクタールあたり間伐補助金単価に面積をかけて事業費を算出し発注を行っており、すでに利用期に入っている森林であっても、木材販売収入を見込んでいないといった状況が見受けられました。

そこで、関係者と協力して地域の林業事業者が、十分に低いコストで木材生産を行う能力

があるかどうかを把握するため、現在実施している作業システム、間伐の生産性などを調査することとしました。  
その結果、収益性を求めるには厳しい状況にあり、今後、地域の林業事業者の能力を踏まえた事業方法、事業箇所の選定について検討していく必要があると思われました。

#### 三 生産・販売事業に関する ノウハウの提供

このような状況のもと、当署では国有林で採用している作業システムを紹介するとともに、民有林で実際に間伐を実施した箇所について、高性能林業機械を導入することにより、生産性がどの程度向上するか作業システムごとに提示し、今後の事業発注等に当たっての検



署職員による工程管理システム講習会

討資料を提供したことです。  
今後、間伐材の販売に関しても、国有林の状況等について情報提供していくことといたします。  
また、個々の林業事業者に対して、現在普及を進めている「工程管理システム」を使って、間伐を実施した箇所における生産性の実績数値を示し、具体的な作業システムの改善方策の検討材料として提供しました。

#### 四 おわりに

現状で、当地域の林業事業者の規模、体力を考えると国有林で導入している作業システムをそのまま事業に持ち込むことは難しい状況ではありますが、地域の林業関係者の間では、高性能林業機械を用いた作業システムを導入する必要性は認識されているように思われます。  
当署においては、今後とも地域林業の発展のため、地域の林業関係者と定期的な意見交換を行いつつ、国有林の持つ様々な事業ノウハウを提供するなどしながら、地域林業の課題の解決に貢献していきたいと考えています。

# こんにちは 森林官です!

上川南部森林管理署  
幾寅森林事務所  
(幾寅・トマム担当区)  
首席森林官  
奥川 勘介



## ○森林事務所の所在地



十勝との境目 狩勝峠  
(南富良野町側から十勝平野)

幾寅森林事務所は上川総合振興局管内の南部に位置する南富良野町に所在し、落合森林事務所、金山森林事務所との合同森林事務所になっています。

担当する国有林は、南富良野町の幾寅担当区(約7千ヘクタール)と占冠村のトマム担当区(約1万3千ヘクタール)で、南富良野町と占冠村の2つの自治体と関わる森林事務所です。

この地域は、四方を大雪山系や日高山脈などの山々に囲まれています。

占冠村にはレクリエーションの森として選定されている「石勝高原トマムスキー場」野外スポーツ地域があり、雄大な自然と新鮮な空気に浸り、スキー・スノーボードなどのスポーツ

のほか、山頂からの山岳景観や雲海等を楽しむことができ、全国的に名の知られた観光地となっています。また、南富良野町・占冠村ともに空知川や鷓川といった河川の最上流部に位置しているため、ラフティングなどの四季を感じられる自然体験型観光でも注目されている地域です。



石勝高原トマム山スキー場  
(占冠村)

## ○管轄区域の概要

当管内においても主伐期を迎えた人工林が増加傾向にあり、将来の複層林化を目指した施策が実施されています。また、造林事業の低コスト化を目的としたコンテナ苗の低密度植栽やクラッシュ地拵などの試験的な施策も実施し、現地検討会等を通じて、地域林業関係者等への情報提供に努め

ています。

このほか、トマムの国有林は太平洋に流れ込む鷓川の源流部であるため、「お魚を殖やす森づくり」と称した植樹祭が毎年開催(昨年は台風被害のため中止)されており、山の中で遠い海との関係性を感じるイベントとなっています。



お魚を殖やす森づくり  
(占冠村)



クラッシュ地拵現地検討会  
(占冠村)

## ○台風被害の復旧

南富良野町では平成28年8月の台風により空知川が

氾濫し、大きな被害を受けました。特に町内にある金山ダムより上流の地域では、約1年2ヶ月が経過した現在でも多くの場所が被災した痕跡が残っております。

国有林内でも山の斜面が崩れたり、林道にかかる橋が流されるなどの多大な被害を受けました。このため山腹崩壊を防いだり、渓流の浸食を防止する大規模な治山工事を行うとともに、決壊した林道や流失した橋の工事を実施しており、着実に復旧を進めているところです。

これからも国有林を管理する中で、森林の公益性機能を最大限に発揮し、地元の活性化にもつながるよう地域に貢献していきたいです。



コンテナ苗低密度植栽  
(南富良野町)  
※現在まで無下刈



# センター通信

石狩地域森林ふれあい推進センター

今回は、当センターが野幌国有林において、台風被害箇所を自然林へ移行させることを目的とした「野幌森林再生プロジェクト」の一環として実施している「野幌森林づくり塾」について紹介いたします。

この塾は、一般市民を対象に、森林づくりの基礎を学び、実際に作業を体験しながら、森林と人とのかわりについて理解を深めていただくため、平成17年から実施し、今年で13年目を迎えています。

塾においては、森林づくりに必要な保育作業、木材生産等についての基礎知識を学ぶとともに、実際に苗木の育成、樹木の種子の採取、植栽、下草刈り、除伐の作業を体験していただいております。また、個々の樹木調査（直径・樹高の測定等）のほか、作業区域の周囲測量や林内照度調査などの森林調査の基礎技術も習得していただいております。

さらに、森林を幅広い目で見ていただくため、森の

分解者である菌類のほか、昆虫、野鳥、森林土壌、外来種問題等森林に関連する多様なテーマを用意し、森林をいろいろな角度から見ただくようにしております。学識者に講義を依頼する際には、それぞれの専門的知識だけでなく、森林内での作業との関わりについても必ず触れていただくようにお願いしております。



森林の手入れを学ぶ

塾生は、毎年定員20名の募集で、開講当初は十数名程度の応募しかありませんでしたが、現在では40名を超える応募があり、一般市民の森林内でのボランティア活動及び森林環境に対する関心の高さを実感している

るところです。また、最近では20から30歳代の若手層の参加も見られ、リーダーも常に半数程度いるのもこの塾の特徴のひとつとなっています。

毎年、講義内容の一層の充実を図るため、塾生にアンケート調査を実施し、次年度の実施内容についての要望を把握していますが、これまでの実施内容の濃さ等に大変満足している旨の回答も多く、主催者としても一定の成果があったと感じているところです。



菌類を学ぶ

このように毎年の取り組みを積み重ねた結果、塾生のみならず、野幌国有林

における様々なイベント等に積極的に参加するだけでなく、野幌森林再生プロジェクトの一員として、実際のボランティア活動に加わり、森林内での作業や調査を行い、活躍されています。



歴史を学ぶ  
(昭和天皇「駐蹕の碑」※の前で)

今後においても、一般市民のみならず、森林について何を思い、何を求めているのかを常に意識し、有意義な講義内容になるよう継続実施していきたいと考えています。

※「駐蹕の碑」(ちゅうつひつのひ) 昭和11年10月に昭和天皇が行幸の途中で風食をとるためにお休みになられたことを記念して、この碑が建立されました。



# 各地からの便り

「各地からの便り」の詳細は

森もりスクエア

検索



## 【北海道森林管理局】

平成 29 年 10 月 15 日、当別町道民の森神居尻地区において北海道、北海道森林管理局、北海道森と緑の会、当別町の共催による「北海道・木育(もくいく)フェスタ 2017 植樹祭・育樹祭」を開催しました。

今年の植樹祭・育樹祭は、催事会場として、9 月 23 日にオープンした当別町の道の駅を使用し、地元の当別町や札幌市などから約 900 名が来場しました。

式典では、山谷北海道副知事による主催者挨拶や宮司当別町長による地元歓迎挨拶、湧上北海道森林管理局長による森林の役割や植樹・育樹の大切さについて話がありました。

この後、現地の環境を考慮して選ばれたアカエゾマツなどの苗木を 1000 本植樹し、育樹活動では平成 9 年の植樹祭で植えたアカエゾマツの枝打ち作業を行いました。



名寄南小学校で  
森林教室を開催

## 【上川北部森林管理署】

名寄市立名寄南小学校と当署は「遊々の森」協定を締結しており、毎年 3 年生を対象とした森林教室を開催しています。

今回は、昨年当署で作成した森林教室のメニュー等を紹介した「森林環境教育プログラム」という教職員及び当署職員向けのマニュアルと児童に森林への興味を持ってもらうための「もりもり大作戦」という児童向けの冊子を活用して 2 回にわたり森林教室を開催しました。

第 1 回目(10 月 4 日)は「カミネッコンを利用した植樹体験」を行い、オリジナルのポット苗を作成しました。

第 2 回目(10 月 19 日)は「空飛び種について」と「森林の動きについて」を取り上げ、樹木や森林について知ってもらいました。



2017 弟子屈町  
木育週間  
「森林体験教室」

## 【根釧西部森林管理署】

弟子屈町では毎年、木育の取組みの一環として「木育週間」が設けられています。この取組みの 1 つとして 10 月 7 日、弟子屈町主催による「木に学ぼう! 木で遊ぼう! こども木育デー」と題して、町内の小学生を対象に森林体験教室が開催されました。

午前中は国有林内で森の探検活動を実施しました。実際に森林官が行う業務を体験したり、林内でゲームをしたりして森林に触れてもらいました。

午後からは町の林業多目的センターにて木育体験屋台と称して、ブース形式で木工やたき火を楽しんでもらいました。

森林への理解とともに木材への理解も深められた 1 日となりました。

# 宗谷森林管理署 新庁舎の完成間近

宗谷森林管理署の現庁舎は、昭和35年に現在の場所（稚内市中央1丁目）に建設され築後50年以上経過しており、老朽化が著しいことから、本年の12月末の完成に向けて、稚内市港4丁目で庁舎の新築工事を行っています。

10月上旬には土台、柱、梁等が施工され、道産のトドマツ無垢材や集成材を使用した木造の庁舎であることが一目で分かります。



庁舎の屋根を支える集成材の梁

大型の集成材の梁が16本使われ、積雪加重に耐える構造となっています

道産のトドマツをふんだんに使用した木造軸組工法<sup>1)</sup>の庁舎  
(撮影:平成29年10月17日)



完成が待ち遠しいなあ



JAS法に基づき樹種名等を明示した集成材

**JAS(日本農林規格)**  
この認定がされている木材は乾燥や保存処理といった品質管理が適正に行われていることを示しています安心して使える木材ですね

1) 木造軸組工法: 我が国の代表的な木造建築工法で、木材の土台、柱、梁等で構成される軸組で荷重を支える建築工法



広報 「北の森林 国有林」 11月号  
発行 北海道森林管理局  
編集 総務企画部 企画課  
〒064-8537 札幌市中央区宮の森 3条7丁目70  
I P 電話 050-3160-6300  
電話 011-622-5213  
F A X 011-622-5194  
<http://www.rinya.maff.go.jp/hokkaido/>

## 「北の国・森林づくり技術交流発表会」の開催と発表の募集について

北海道森林管理局では平成30年2月6～7日の2日間、北海道大学「学术交流会館」において、「平成29年度北の国・森林づくり技術交流発表会」を開催します。そこで、森林づくり、森林環境教育含め、森林・林業に関する取組活動についての発表を募集します。  
※詳しくは北海道森林管理局HPをご覧ください

